

私たちのまち 新潟はどう変わるか?

「広域都市・新潟」

周辺都市を合わせて人口150万人、日本海側の一大拠点都市だ。だが、まちは大きさを感じさせない人情味豊かな庶民のまちであることは変わらない。市街地の中心部は高層ビルが林立しているが、葎のままのまち並みも周辺にあり、便利で住みやすいまちなのだ。

「夕日のまち・新潟」

砂浜は人工的に造られたもので、海水浴場やヨットハーバー、海釣り公園などもつくられている。砂浜に腰をおろし、大きな夕日が佐渡に沈むのを見る。海が光り輝く一瞬だ。この美しさはいつでも変わることはない。

「橋のまち・新潟」

繁華街に堀があり、四ツ橋もある。しかし、信濃川に万代橋を中心にして三本の橋がある。川面に影を落とす違った型の三つの橋が川辺の美しい景観によく映える。これぞ一大モニュメントとして新潟の象徴なのだ。

「坂のまち・新潟」

まちなかの標高に昇り、日本海に行く。海へ行くにはどこから行くにも坂を上る。坂の多いまちだ。坂は美しく登り下りされ歩くのが楽しい。森を上り、松林を過ぎると広い砂浜がつづく。

「文化の香る盛り場」

古町から駅前まで繁華街がつづく。地上も地下も人でにぎわっている。新しい交通機関も頻りに往復している。乗り降りしやすい軌道式小型カー、待たずに乗れる自動制御の車だ。地下はリアモーターカーの地下鉄が走る。

まち並みに美術館や、小ホールがはめ込まれ、憩いの小公園、にぎわいのなかに文化の香りの

「国際都市・新潟」

まちには外国人が大勢いる。とくにアジアの人が多く。みんな、新潟のまちに、人に溶け込んで生活している。新潟の人も、すっかり陽気になっている。

外国との交流拠点は、空港と港。空港は二つある。国内主要都市を結ぶ空港。そして国際空港だ。国際空港は海に突き出た海上都市にある。このまちは24時間都市。会社、商店街、みんな眠らないで活動している。世界の情報がここに集まる。世界の貨物がここに集まる。情報が貨物がここから集散する。

新潟で東京がわかる。世界がわかる。

「アメニティ都市・新潟」

新潟駅の駅舎も軌道もホームも人工地盤の上にある。その下を車が、人が通っている。車や人は真つすぐに通り抜けて、駅南の繁華街に出る。

急に道幅が広くなり、真ん中に水が流れ、緑の植え込みが美しい。水の流れて行くくと眼前に大きな水面がひらける。花咲き鳥うたう鳥屋野湯だ。

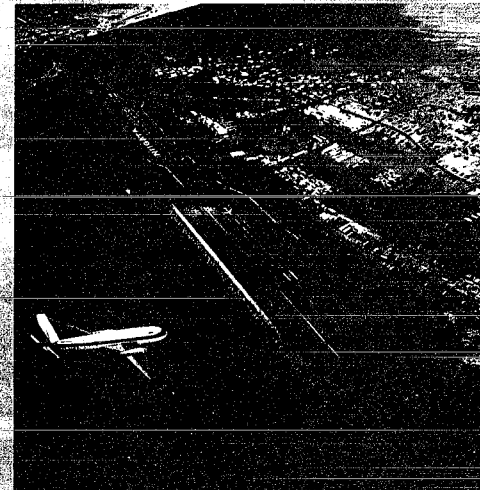
水面には白鳥が遊び、子供も水に入って遊ぶ。

湖の中に大きな島があり、そこが月の名所、中空にかかる月は水面にうつり、まわりの景色が墨絵になってうかぶ。島では夜おそくまで月見の宴があちらこちらではられている。

この静けさと対照的に鳥屋野湯の向こうは不夜城。遊園地のあかりだ。遊戯施設、レジャー施設、土産物屋、劇場、ホテルなど夜おそくまでにぎわっている。

鳥屋野湯の「静けさ」と遊園地の「にぎわい」が包み込まれているのが「アメニティ空間」なのだ。

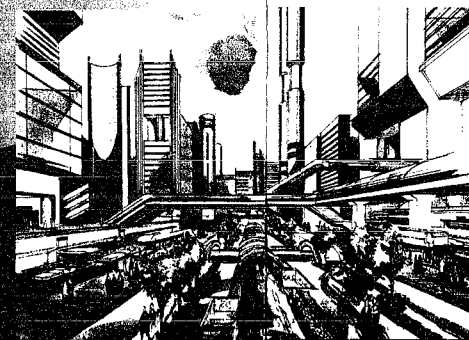
ここまでの道程は容易ではなかった。色々な分野で、痛みを分け合いながら前進し創造し、今日、機能的でしかも美しいまちになったのだ。



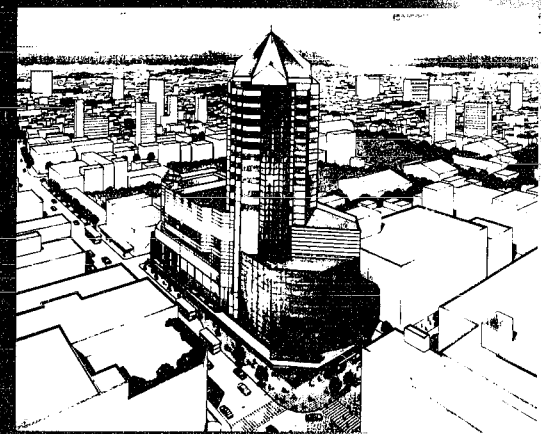
滑走路が伸びた空港



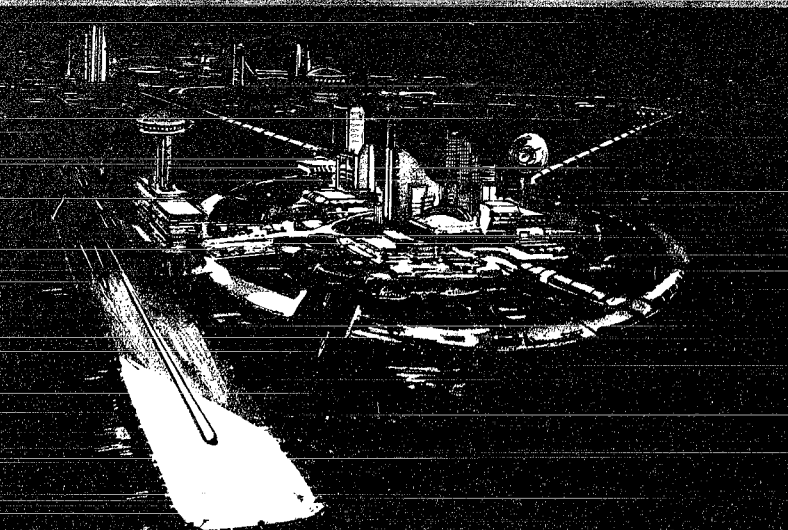
砂浜の広い海岸



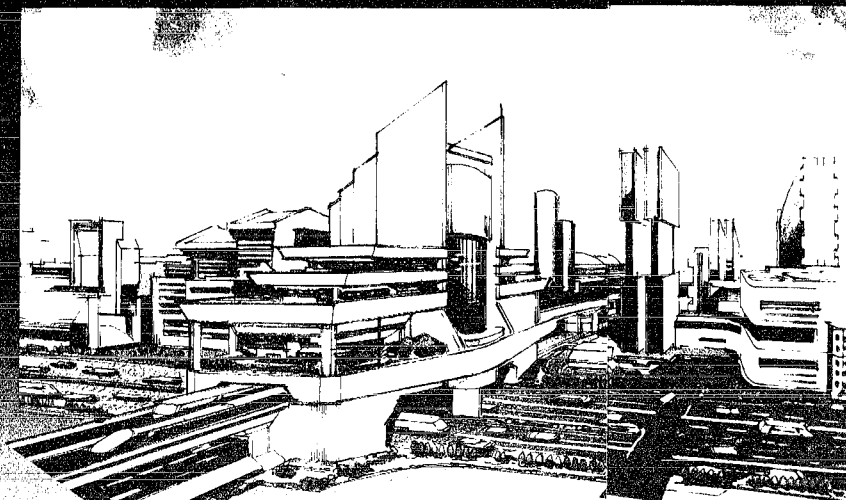
橋のある街



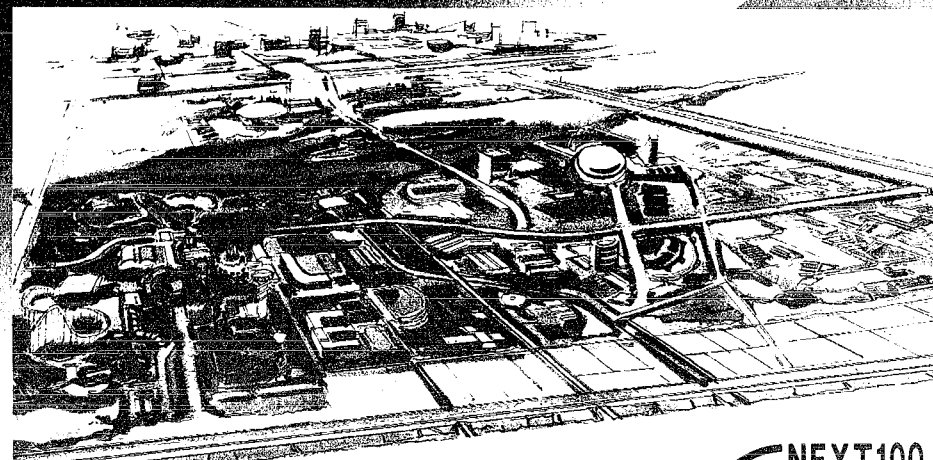
文化の香る盛り場



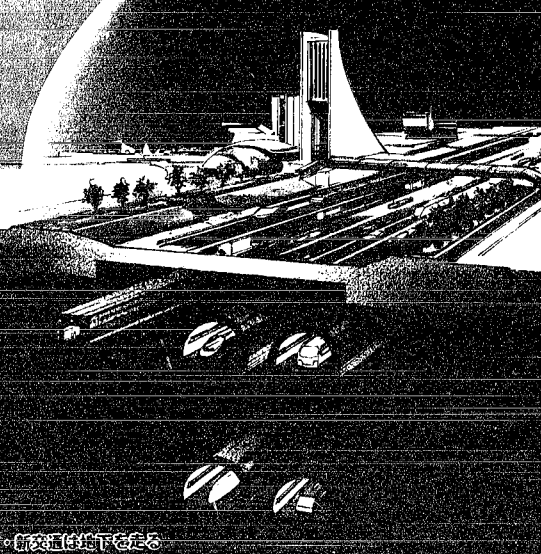
24時間機能を持つ海上都市



人工地盤上の駅舎



アメニティゾーン



新交通は地下で走る